

令和5年度自己点検・自己評価結果について

当学院では、看護教育の水準の維持・向上のため、令和2年度から自己点検・自己評価を実施している。これまで評価項目の洗い出し、修正や検討を重ねながら、教員による自己点検・自己評価に取り組んできた。令和5年度の結果を公表する。

1. 自己点検・自己評価の方法

1) 評価指針

自己点検については、青森県看護師等養成所の運営に関する指導要領の「看護師養成所(2年課程)自己点検表」に基づき実施する。

自己評価については、厚生労働省から示された「看護師養成所自己点検・自己評価指針」と文部科学省から示された「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考にし、当学院独自の自己評価シートを作成し、使用する。

2) 評価内容と基準

大項目を「Ⅰ.教育理念、教育目的、教育目標」、「Ⅱ.学校運営」、「Ⅲ.教育活動」、「Ⅳ.学生支援」、「Ⅴ.学生の受け入れ」、「Ⅵ.国際交流、地域社会」、「Ⅶ.研究、研修」とし、18の中項目を設け、さらに具体的な評価内容を48抽出した。

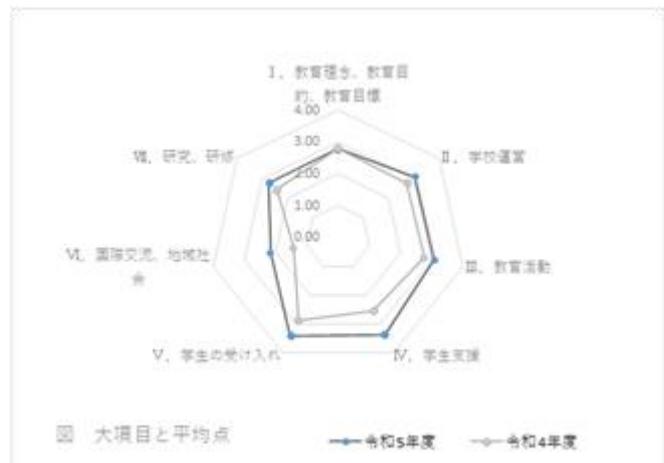
評価基準は、4：あてはまる 3：ややあてはまる 2：ややあてはまらない 1：あてはまらないとした。

2. 結果と考察、課題

大項目と平均点については、表と図の通りである。令和5年度は、令和4年度と比較すると、Ⅰ.教育理念、教育目的、教育目標のみが、平均点を下回ったが、他は改善がみられていた。Ⅵ.国際交流、地域社会は2.17と低値であり、今後の課題である。

表 大項目と平均点

	令和5年度	令和4年度
Ⅰ. 教育理念、教育目的、教育目標	2.79	2.82
Ⅱ. 学校運営	3.08	2.75
Ⅲ. 教育活動	3.09	2.75
Ⅳ. 学生支援	3.36	2.54
Ⅴ. 学生の受け入れ	3.42	2.86
Ⅵ. 国際交流、地域社会	2.17	1.43
Ⅶ. 研究、研修	2.76	2.44



Ⅰ. 教育理念、教育目的、教育目標

平均点は2.79であった。これは令和4年度より低い結果となった。

カリキュラム改正に伴い、教育理念、教育目的、教育目標についての話し合いがもたれたことにより、各教員は認識し努力していた。しかし、これを学生に浸透させているかについては低い結果となった。学生への浸透については、現在、入学時や新年度開始時にオリエンテーションとして行っているものの、その他の活動が明確ではなく、評価が低くなったと考える。浸透のためには、折りにふれ周知の機会を増やすなど工夫が必要であると考えます。

## Ⅱ. 学校運営

平均点は 3.08 であった。概ね良い結果であり、組織として学校運営が健全に運営できるよう、個人情報保護や防災体制などそれぞれが努めている結果になったと考える。

学校運営に対する学生の意見が反映されているかについては、低い結果であり、検討が必要である。また、全教員が財政基盤の成り立ちについて十分理解しているとはいえず、理解する機会をどのように得るか課題が明確になった。

## Ⅲ. 教育活動

平均点は 3.09 であり、概ね良い結果であった。しかし、教職員育成・教育推進活動において、教職員の授業準備のための時間の確保や職場内研修は不十分であるとの結果であった。実習期間中は、日中の実習と夜間の授業が重複することが授業準備時間の確保ができない原因のひとつと考えられ、実習教員の確保や実習副担当との調整が必要である。学校が抱えている課題に対する職場内研修についても、不十分であるとの結果であった。教員それぞれが問題意識を持ち、取り組んであるが職場全体に浸透していないのが現状である。今後は、各自が受けた研修の伝達講習や、授業研究のワーキンググループでの活動を活発化し、職場の課題にあわせた研修を取り入れたい。

卒業生の支援については、現在は卒業生側からの相談があった場合への支援がほとんどである。実習施設に就職した学生についてはある程度情報交換ができていますが、学校側から卒業生への発信をどのようにするかが課題である。

臨地実習は、平均点以上の結果であったが、インシデント、アクシデントを分析し、学生指導に十分活かし切れていないことが課題として明確になった。すでにインシデント・アクシデントレポートの修正を行い、学生指導に取り組んでいる。

## Ⅳ. 学生支援

平均点は 3.36 であった。概ね良い結果であり、学生への支援、学生の健康管理などこの状態を維持していきたい。特に、健康管理については 3.71 と高得点となった。新型コロナウイルス感染症はじめインフルエンザなどの感染症対策は、現状に応じて実績を積み重ねた結果と考える。

保護者との情報共有、学生の経済的支援、進学・就職支援に関しては不十分であるとの結果であった。奨学・修学資金の積極的な周知や、就職支援の教員を担任以外にも担当するなど取り組んでいく。保護者との情報共有については、学生は成人していること、学生の背景の複雑さも考慮すると今後も検討が必要である。

## Ⅴ. 学生の受け入れ

平均点は 3.42 であった。概ね良い結果であった。学生数は定員に満たない状況が続いており、学生数の確保は喫緊の課題である。今後は、現在行っている活動のみならず、市役所 HP をさらに活用、在校生からの PR など学生募集に努めたい。

## Ⅵ. 国際交流、地域社会

平均点は 2.17 であった。特に国際交流は低い結果であった。国際交流については、授業を通して情報発信できるようにしたい。学生は勤務しながらの通学者がほとんどを占めるため、ボランティアの活動時間の捻出が難しいのではないかと考える。学生は日中、地域の病院等で働くことで地域医療に貢献していると思われるが、さらに地域と結びついていくためには、学生・教員ともにボランティア活動ができるきっかけ作りや支援する仕組み作りが必要と考える。

## Ⅶ. 研究、研修

平均点は 2.76 であり、評価点数にもばらつきがあった。自主的な研修への参加については 3.29 と概ね高く、研修への参加体制、研究活動を教員相互で支援し合う環境は低い結果であった。研修への参加は、各自の自主性に任せられており、研修への参加に対する物的支援、業務の支援体制が整っていないことが原因と考えられる。教員自身は研究活動や研修への意欲はあるが、体制・環境が整わず取り組めていない状況であると考えられる。